

# シャレイア語文法

2代4期

Ziphil Aleshlas

# 目次

文字.....	4
シャレイア語文字.....	4
数字.....	4
基本語順.....	5
動詞＋修飾語句.....	5
被修飾語＋修飾語句.....	5
助詞＋名詞.....	6
否定文.....	6
否定文.....	6
疑問文.....	6
諾否疑問文.....	6
疑問詞疑問文.....	7
選択疑問文.....	7
機能副詞.....	7
時制副詞.....	7
相副詞.....	8
自他副詞.....	8
法副詞.....	9
敬意副詞.....	9
機能副詞の順番.....	10
機能副詞の省略.....	10
態相当表現.....	10
態相当表現.....	10
否定表現.....	11
否定副詞.....	11
部分否定, 全部否定.....	11
否定相当語句.....	11
比較.....	11
比較級.....	11
最上級.....	12

同等級.....	12
関係詞.....	12
関係詞.....	12
接続詞.....	13
語句接続詞.....	13
文接続詞.....	14
挿入, 強調.....	14
挿入.....	14
強調.....	14
重要語.....	15
終副詞.....	15

シャレイア語で使う文字には、地球上のラテンアルファベットと形が似ているものが多くあります。シャレイア語文字とラテンアルファベットとを明確に区別するため、本文やラテンアルファベットは明朝体(セリフ体)で、シャレイア語文字はゴシック体(サンセリフ体)で書かれてあります。

# 文字

## シャレイア語文字

シャレイア語を表記する際は、それ特有の文字を使います。その中でアルファベットに相当するものは、全部で以下の 24 文字です。また、これらの文字は全て表音文字なので、英語のように発音と綴りが異なるといったことはありません。

文字	転写	発音	文字	転写	発音
<b>a</b>	a	/a/ ア音	<b>f</b>	f	/f/ ファ行
<b>e</b>	e	/e/ エ音	<b>v</b>	v	/v/ ヴァ行
<b>i</b>	i	/i/ イ音	<b>c</b>	c	/c/ キヤ行
<b>o</b>	o	/o/ オ音	<b>q</b>	q	/ʃ/ ギヤ行
<b>u</b>	u	/u/ ウ音	<b>x</b>	x	/ʃ/ シャ行
<b>s</b>	s	/s/ サ行	<b>j</b>	j	/ʒ/ ジヤ行
<b>z</b>	z	/z/ ザ行	<b>r</b>	r	/r/ ラ行
<b>k</b>	k	/k/ カ行	<b>l</b>	l	/l/ ラ行
<b>g</b>	g	/g/ ガ行	<b>n</b>	n	/n/ ナ行
<b>p</b>	p	/p/ パ行	<b>m</b>	m	/m/ マ行
<b>b</b>	b	/b/ バ行	<b>y</b>	y	/j/ ヤ行

発音の欄には IPA 表記とそれに近い日本語の発音を表記しました。アルファベットによる転写は、この文字が表示できない環境や、この文字に慣れていない人が読みやすいように使うものです。

## 数字

シャレイア語は異世界で使われる言語なので、地球では共通のアラビア数字も通じません。以下のような、特有な文字を用います。

数の数え方は地球と同じ 10 進法なので、0 から 9 までの数字を用います。それぞれ以下のような形をしています。アラビア数字と似ている文字もありますが、混同しないように注意してください。

文字	数	文字	数	文字	数	文字	数
0	0	3	3	6	6	8	8
1	1	4	4	7	7	9	9
2	2	5	5				

## 基本語順

### 動詞 + 修飾語句

シャレイア語では、どんな文でも動詞が文頭にきます。そして、その動詞の後に主語や目的語などの動詞を修飾する要素が置かれます。

**ros a del.** 私は走る。

ros は「走る」という意味の動詞です。a は主語を明示する助詞で、日本語の「は」に相当します。del は「私」を意味する名詞です。この文では、a del が動詞 ros を修飾しています。

**gils a del e daat co vos.** 私はあの人から椅子を買う。

この文のように、修飾語句をたくさん並べることもできます。gils は「買う」です。e は目的語を表す助詞で、日本語の「を」と同じです。co は「～から」の意味で、vos は「あの人」です。a 以下が全て gils を修飾しています。

修飾語句の順番は自由です。つまり、上の文は gils co vos a del e daat と書いても間違いではありません。ただし、シャレイア語では重要なものを前にもってくる性質があるので、こう書くと co vos の部分がいわば強調された形になります。

日本語の句点や英語のピリオドに相当する記号は点 2 つです。上の例文のように、文末には必ず天を 2 つ打ちます。手書きの場合はコンマのように左下に払っても OK です。また、日本語の読点や英語のコンマに相当する記号は点 1 つです。ただし、この点は読みやすいように好きどころに打って良いというわけではなく、打つところが決まっています。この法則については今後説明してきます。

### 被修飾語 + 修飾語句

修飾語句は、それが修飾する語の後ろに置かれます。英語とは違い、1 語でも後置します。

**paf falas** 赤い花  
**vit dacos zep** とても高価なペン

paf falas では、falas (赤い) が paf (花) を修飾しているので、上のような語順になります。また、vit dacos zep では、dacos (高価な) が vit (ペン) を、zep (とても) が dacos を修飾しています。

1つの語に修飾語句が2つ以上ある場合は順に並べます。このとき、順番は自由です。

## 助詞＋名詞

シャレイア語では、名詞は必ず助詞を伴います。〈動詞＋修飾語句〉の項の例文を見ると、del, daat といった名詞は、全て a, e, co などの助詞とともに使われていることが分かります。

ただし、助詞の後に必ず名詞がくるというわけではありません。助詞の後に形容詞がくることもあります。ただし、このようになるのは少ないので、基本的に、名詞は助詞を伴い、助詞の後には名詞がくる、と覚えておいてください。

## 否定文

### 否定文

否定文は、肯定文の動詞のすぐ前に「否定副詞」と呼ばれる nu をつけることで作ることができます。

**nu ros a del.** 私は走らない。

この nu は動詞のみを否定します。すなわち「毎日走る」という文を nu を使って否定すると「毎日走らない」という全部否定の文になります。部分否定や全部否定については、〈部分否定, 全部否定〉の項で詳しく説明します。

否定副詞には他にも du というものがあります。これは英語の never と一緒に強い否定を表します。日本語にするのであれば「決して～しない」です。これも同様に動詞のみを否定します。

## 疑問文

### 諾否疑問文

諾否疑問文、つまり「はい」もしくは「いいえ」で答えるような疑問文は、平叙文の文末に「終助詞」と呼ばれる siin をつけることで作ることができます。英語のように語順は変わりません。

**ros a los siin?** あなたは走るか?

疑問文では、文末に点2つの代わりに「?」という記号を使います。これはクエスチョンマークに相当するものです。読むときは語尾を上げます。

口語ではこの siin はよく省略され、平叙文の語尾を上げるだけになります。文語では省略することはできません。

この類の疑問文に答えるには、ja と ne を使います。ja は聞かれた内容が正しいとき、ne は聞かれた内容が間違っているときに使います。日本語の「はい」、「いいえ」と同じ用法ですが、英語の「yes」、「no」とは違う用法です。つまり、否定疑問文に答えるときは、答えが肯定文ならば ne になります。

**nu ros a los siin?** あなたは走らないか?

**ne.** いいえ。(走る。)

また、siin を使ったにもかかわらず、文末を？で終わらずに平常文のように．で終わらせ、文末を上げずに読むと、「どうして～しないのか」というような反語的な意味になり、軽い命令のニュアンスが入ります。

**ros a los siin.** どうして走らないのか。(走れ。)

これは、直接命令したくないときの婉曲表現として、口語でしばしば用いられます。

## 疑問詞疑問文

「何」や「誰」などの疑問詞を含む疑問文も簡単に作れます。平叙文において尋ねる部分を疑問詞に変えるだけです。語順が変わることはありません。

**es a los e ses?** あなたは誰か?

**al a los e send?** あなたは何をするのか?

疑問詞は以下の4つしかありません。sek だけが形容詞で、他は名詞です。

**ses** 何(名詞)      **selt** どこ(名詞)

**send** 誰(名詞)      **sek** どの(形容詞)

これと助詞をうまく組み合わせることで、「なぜ」や「どうやって」などの疑問文を作ることができます。例えば、原因理由を表す助詞 sali と疑問詞 ses を組み合わせて sali ses とすれば、「なぜ」という意味を作ることができます。

**raak a los e mabol sali ses?** なぜあなたは家を売するのか?

他にもこのような方法で作ることができる疑問詞句があります。よく使うのが以下の3つです。

**ta ses** いつ      **qasi ses** どうやって

**sali ses** なぜ

## 選択疑問文

選択疑問文とは、「A と B ではどちらが良いか」などのような、選択肢を提示しておいて、そのどれかを答えさせる疑問文です。これは選択肢を depi 句で表現することで作ることができます。

**es e ses e boonk jol depi vond o find?**

あれとこれではどちらがより安いか?

上の文は、まず「どちらがより安いか」という普通の諾否疑問文を作り、そこに選択肢である「あれとこれでは」の部分を depi 句でつけ足して作ります。「より～」は jok を用います。詳しくは〈比較〉の項で説明します。「どちら」は「何」と同じで ses を使います。

## 機能副詞

### 時制副詞

時制は、「時制副詞」と呼ばれる副詞を動詞の前に置くことで示すことができます。シャレイア語の時制は4種類です。それぞれ以下の時制副詞を用います。

fo 通時時制                      zo 過去時制

le 現在時制                      pe 未来時制

通時時制は、例えば「地球は青い」などのように、時間に関係なく一定である事実を述べるときに使います。ただし、永遠に一定である必要はありません。例えば「彼はシャレイア語を話す」ということは、その彼が死んでしまえば否定されます。しかし、彼が生きている、というある程度長い時間の幅の中で、この事実は一定であるので、通時時制が用いられます。また、日々の習慣なども通時時制で表現されます。

|| fo es ans li vos e sant.      あの人の目は青い。

現在時制は、今起こっていることを表します。英語の現在形とは違い、現在の習慣などを現在時制で表現することはできません。習慣は通時時制になります。

過去時制は、過去の出来事を述べるときに用います。

|| zo iiv a del de mabol li los.      私はあなたの家に行った。

未来時制は、未来に起こるであろう出来事を述べるときに使います。英語の will とは違い、推量や意思の意味は含まれません。推量は〈法〉の項で説明する法副詞を用いて表現します。

|| pe zoon a del to filt.      私はここを去るだろう。

## || 相副詞

相とは、動詞の局面を示すものです。例えば「～し始める」や「～している」などがそれに当たります。相は「相副詞」と呼ばれる副詞を動詞の前に置くことで示すことができます。シャレイア語の相は7種類で、それぞれ以下の相副詞を用います。

pi 将然相 (～しようとする)                      lu 継続相 (～している)

fa 開始相 (～し始める)                      vu 終了相 (～し終わる)

ya 経過相 (～している途中)                      ma 無相 (～する)

di 完了相 (～した)

将然相、経過相、継続相は、その相が表す時間に幅があります。それに対し、開始相、完了相、終了相は、時間の1点を表します。無相は、動作が始まってから終わるまで、すなわち将然相から終了相まで、もしくは将然相から完了相までを表します。

経過相と継続相は、どちらも日本語では「～している」と表現するので、区別には注意が必要です。例えば、「去る」を例にとると、去り始めて移動してはいるものの去る前にいた場所から離れていない状態は経過相、その場所から離れてしまえば継続相になります。

## || 自他副詞

動詞には「起きる」と「起こす」のような、自分自身で可能な動作を表す動詞と、その動作を相手ができるようにしてあげることを表す動詞のペアが存在します。この動詞のペアを「自他動詞」と呼び、シャレイア語では同じ語を用います。そのため、どちらの意味で用いているのかを明示させる必要があります。

「起きる」のような自分だけで可能な動作を表す動詞は「自動詞」と呼ばれ、その動作ができるようにしてあげることを表す動詞は「他動詞」と呼ばれます。そして、これらを区別するために、動詞の前に「自他副詞」と呼ばれる副詞を置きます。自他副詞は以下の2種類です。

**te** 自動詞                      **ve** 他動詞

例として「横になる、横にする」という意味の動詞 **daol** で使うと、以下のようになります。

**te daol a del.**                      私は横になる。  
**ve daol a del je los.**              私はあなたを横にする。

原則として、他動詞の相手は助詞 **je** で表現します。

## 法副詞

法とは、「～しなければならない」などのような表現のことをいいます。法は「法副詞」と呼ばれる副詞を動詞の前に置くことで表せます。以下は、よく使う10種類の法副詞です。

<b>kazo</b> ~しろ	<b>lije</b> ~する必要がある
<b>bege</b> ~するに違いない	<b>pomi</b> ~するかもしれない
<b>dove</b> ~しなければならない	<b>sapi</b> ~するだろう
<b>casi</b> ~することができる	<b>kadi</b> ~するつもりだ
<b>femi</b> ~するのが良い	<b>vije</b> ~するべきだ

注意すべき点として、**kazo** は否定副詞を伴うと「～するな」という禁止の意味になります。

**casi zal a del e liax-xaleia.**              私はシャレイア語を読むことができる。  
**kazo nu klan a los e find.**                これに入るな。

**kazo** は命令(もしくは禁止)を表しますが、命令というのは目の前の人、すなわち「あなた」に向かってされるものなので、主語はほとんどの場合「あなた (**los**)」になります。そのため、口語ではよくこの主語が省略され、この主語につく助詞が文末に置かれます。助詞が省略されないのは、主語の格情報を残すためです。

## 敬意副詞

相手に敬意を払いたい場合は「敬意副詞」と呼ばれる副詞を用います。シャレイア語の敬語は以下の3種類です。**faa**, **zee** は動詞の前に、**tan** は文末に置かれます。

**faa**    尊敬                      **tan**    丁寧  
**zee**    謙讓

尊敬は、文の主語に対する敬意を表します。謙讓は、文の目的語などの主語以外に対する敬意を表します。丁寧は、話し相手に対する敬意を表します。この点は日本語と全く同じです。

**faa zof a tees de mabol li del.**              彼が私の家にいらっしゃる。  
**es a del e elvin tan.**                          私はエルヴィンです。

また、この敬意副詞を同時に用いることもできます。その場合、**faa** と **zee** は合わせて **faazee** という 1 語にして使います。

## faazee zo taqal a melfia e fiical je kanzas tan.

メルフィアはカンザスに手紙をお書きなさいました。

**melfia, kanzas** は人名です。上の文では、メルフィアに敬意を示すために尊敬、カンザスに敬意を示すために謙譲、話し手に敬意を示すために丁寧を用いています。

ちなみに、上の文で出てきた「手紙を書く」は、シャレイア語では「手紙を作る (**taqal e fiical**)」と表現します。

## 機能副詞の順番

これまで時制副詞、相副詞、自他副詞、法副詞、敬意副詞を説明しましたが、この 5 つの副詞をまとめて「機能副詞」と呼びます。今まで説明したように、機能副詞は動詞の前に置かれます。

機能副詞を 2 つ以上用いたい場合は、法福詞、敬意副詞、時制副詞、相副詞、自他副詞の順で並べます。時制副詞、相副詞、自他副詞を同時に使う場合は、合わせて 1 つの語にします。例えば、下の例のように、現在時制終了相の場合、現在時制の **le** と終了相の **vu** を合わせて **levu** という 1 語にして使います。

## levu zal a del e tast fik.

私はこの本を読み終わった。

## 機能副詞の省略

機能副詞を全てのわざわざ書いてはあまりに冗長なので、省略する法則がシャレイア語には定まっています。

まず、時制副詞は通時時制の場合に限り省略できます。相副詞は無相に限り省略できます。ただし、**es** や **cant** などの一部の動詞は、相副詞を省略した場合に継続相で意味をとられるものもあるので注意してください。それ以外の副詞は基本的に省略できません。

ただし、口語ではさらに省略されます。例えば「今から過去の話をする」というのが明らかならば、過去の時制副詞は省略されます。また、文脈から時制や相が明らかの場合も省略されます。ですが、法副詞、敬意副詞は口語でも絶対に省略できません。

## 態相当表現

### 態相当表現

日本語や英語では、「～する」という能動態と「～される」のような受動態は区別して表現されますが、シャレイア語ではこの区別はありません。

能動態と受動態の違いは、主語か目的語かどちらに重点を置くかです。シャレイア語は、主語の **a** 句と目的語の **e** 句は入れ替えが自由に可能であるため、重点を置きたい方を前にもってくれば良いだけなので、特殊な構文が必要ではありません。

シャレイア語は、普通主語の a 句を動詞のすぐ後に置きます。これがいわば能動態になります。受動態の意味にしたければ、目的語に重点を置くために、e 句を動詞のすぐ後に置けば良いのです。これを「受動態相当表現」と呼びます。

zal a del e tast. 私の本を読む。

zal e tast a del. 本は私に読まれる。

ちなみに、上の zal e tast a del は、受動態相当表現とも tast の強調とも考えられます。シャレイア語ではこれらを区別しません。

## 否定表現

### 否定副詞

否定副詞はすでに説明した nu, du の 2 つです。これらはすぐ後の単語のみを否定します。

動詞に対する使い方は、〈否定文〉の項で説明した通りです。ただし、この否定副詞は動詞だけでなく名詞などの動詞以外の語も否定します。例えば名詞の前に置くことで「～ではないもの」という意味になります。

es a del e nu elvin. 私はエルヴィンではない (エルヴィン以外の誰か)。

### 部分否定, 全部否定

否定副詞 nu は直後の語のみを否定します。そのため、例えば「いつも」という意味の eeks を否定すると、「いつも～というわけではない」という部分否定の文になります。

zal a del e tast nu eeks. 私はいつも本を読むというわけではない。

それに対し、動詞を否定すれば全部否定になります。

nu zal a del e tast eeks. 私はいつも本を読まない。

これ以外に部分否定を作る語としては、「全ての」を意味する et などがあります。これを否定すると「全てが～というわけではない」という意味になります。

### 否定相当語句

シャレイア語には、否定副詞を伴わなくても否定的な意味をもたせる語句がいくつかあります。その代表例として、nees, neend, neelt があります。それぞれ「誰も～しない」、「何も～しない」、「どこも～しない」という意味です。それぞれ英語の nobody, nothing, nowhere とほぼ同じ意味です。

zo taal a nees e teend. 誰もそれを食べなかった。

他にも「めったに～しない」という意味の niib などがあります。

## 比較

### 比較級

A と B を比較したときの「Aの方がBよりも～だ」のような表現を「比較級」と呼びます。

比較級を作るには、まず「Aは～だ」という文を書きます。以下でAは「paf vok (あの花)」です。

**es a paf vok e yukik.**      あの花は美しい。

次に、比較している概念である形容詞もしくは副詞、つまり上の文では「yukik (美しい)」に、副詞である jok をつけます。jok は「より～」という意味です。

**es a paf vok e yukik jok.**      あの花はより美しい。

最後に、比較対象である B を ge 句にして置きます。以下で B は「paf fik (この花)」です。

**es a paf vok e yukik jok ge paf fik.**      あの花はこの花より美しい。

比較対象を示す ge 句は省略することができます。その場合、比較対象が文脈から明らかでいちいち書く必要がないか、漠然と「より～」という表現かのどちらかになります。

「彼は彼女より 7cm 背が高い」などのように、どの程度違うかを表すには same 句を用います。

**es a elvin e loon jok ge del same 7 tevokt.**

エルヴィンは私より 7センチヴォクト背が高い。

elvin は人名です。また、tevokt は長さの単位で 7 tevokt (7センチヴォクト) は 7.7cm を表します。

## 最上級

「AはXの中で最も～だ」のような表現を「最上級」と呼びます。

最上級を作る方法は、比較級を作る場合とほとんど同じです。ただし、vok ではなく「最も～」という意味の vask を用います。「～の中で」は選択疑問文のときにも使った depi 句を用います。

**ros a fis sail vask depi kulan li del.**

彼は私のクラスの中で最も速く走る。

depi 句は省略も可能です。

## 同等級

「AとBは同じくらい～だ」のような表現を「同等級」と呼びます。

作り方は比較級と同じです。「同じくらい～」は gefk を用います。

**es a paf vok e yukik gefk ge paf fik.**

あの花とこの花は同じくらい美しい。

「AはBより～倍～だ」のような倍数表現も、同等ではありませんが同等級で表現します。倍数は比較級のときと同じように same 句で表現します。「～倍」は leis を用います。

**es a kendra e foon ge kelvis same 2 leis.**

センドラ港町はケルヴィス村より 2 倍広い。

## 関係詞

### 関係詞

ある名詞を文が修飾する場合、「関係詞」と呼ばれるものを用います。例えば、次の2つの文を見てください。

**es a vos e seef.**

あの人は女性だ。

**zo akut a del e tees ta ketaak.**

私は彼女に昨日会った。

関係詞を用いると、2文目で1分目の「女性 (seef)」を修飾することができ、1文にすることができます。方法としては、まず修飾する方の文において、修飾される名詞と同じものを表しているものを、関係詞 bis に置き換えます。上の例では以下のようになります。

**zo akut a del e bis ta ketaak**

次に、関係詞 bis をそれに伴う助詞をセットで文頭にもっていきます。

**e bis zo akut a del ta ketaak**

さらに、関係詞 bis を、それに伴っている助詞の前に置きます。

**bis e zo akut a del ta ketaak**

最後に、この文を修飾される名詞のすぐ後に置きます。これで、関係詞を用いて2つの文を1つの文にすることができました。

**es a vos e seef bis e zo akut a del ta ketaak.**

あの人は私が昨日あった女性だ。

被修飾語に形容詞などが伴っている場合は、その形容詞の前に関係詞のある節を置きます。

この関係詞 bis は、修飾される名詞を限定します。上の例で「女性」というのは、私が昨日あった人に限定されています。逆に、限定せずに名詞を修飾する場合は mes を使います。これは、英語のコンマ+関係代名詞の構文と同じ意味で、主に固有名詞を修飾するときに使います。

**zo iiv a del de xaleia mes ye ilt a kelvis.**

私はケルヴィス村があるシャレイア国に行った。

また、口語ではこの関係詞 bis, mes はしばしば省略されます。その場合は、助詞の後が機能副詞か動詞になるので見分けがつきます。

関係詞節の時制は、主節の時制より前か後か同じかを示します。例えば、関係詞節が現在時制ならば、関係詞節と主節がほぼ同じ時刻に起こったということになります。また、関係詞節が過去時制ならば、関係詞節の方が主節より前に起こったということになります。そのため、英語のような時制の一致はありません。

## 接続詞

### 語句接続詞

英語の and のように、語句と語句をつなぐものを「語句接続詞」といいます。すでに出てきたものもありますが、次のようなものがあります。

o と ai または

語句接続詞は、名詞と名詞、前置詞句と前置詞句のように、文法的に等価なものをつなぎます。動詞と名詞などのようなものはつなげません。

|| **cant a del e falas o deev.** 私は赤と緑が好きだ。

## || 文接続詞

文と文をつなぐ接続詞を「文接続詞」といいます。これには以下のようなものがあります。

o	そして	ai	または
zae	しかし	zi	もし
ta	～するとき	tora	～するために
sali	～するので	paki	～するように

文接続詞には、同じ意味で助詞の用法をもっているものが多いです。例えば、時刻を表す **ta** や目的を表す **tora** は助詞として、後ろに名詞をとることもできます。

## 挿入, 強調

### || 挿入

副詞は基本的に文法に置きますが、文中にも置くことができます。

例えば、次の文では副詞 **tukt** が文頭に置かれています。これは最も一般的な書き方です。

|| **iiv a kol de teelt tukt.** 私はときどきそこへ行く。

しかし、副詞 **tukt** は文中にも置くことができます。例えば、動詞の後に置くと以下のようになります。

|| **iiv, tukt, a kol de teelt.** 私はときどきそこへ行く。

文中に副詞を置く場合は、上の例のように、副詞の前後にコンマに相当する記号, を打ちます。また、副詞は文中のどの位置にもこれるわけではなく、動詞のすぐ後か、前置詞句と前置詞句の間のみにくることができます。

### || 強調

動詞を修飾する前置詞句は前後の入れ替えが自由に可能で、前のものに重点を置かれるということはすでに説明しました。つまり、何か強調したい語句があれば、それを前に書けばいいのです。しかし、それよりも強く強調する方法があります。

例えば、以下の文の「**tees** (彼)」を強調したいとします。

|| **zo veiz a del e tees.** 私は彼を待った。

**tees** を含む前置詞句 **e tees** を動詞のすぐ後にもってこれば強調されますが、これはあまり強い強調ではありません。そこで、文頭にもってきて, を打つことで、より強い強調にすることができます。

**e tees, zo veiz a del.**      彼を私は待った。

同じように副詞も文頭に置いて強調することが可能です。

## 重要語

### 終副詞

副詞の中には必ず文末で用いられるものがあり、これを「終副詞」といいます。これまでに学習したものの中で言うと、疑問文を作る **siin** と、丁寧を表す **tan** がこれに当たります。

終副詞は大きく3種類に別れ、1つは文に他の意味をつけ加えるもので、以下のようなものがあります。口語でも文語でも使われます。

**siin**    ~か (疑問)                      **salen**    ~ですよね (確認)

**tan**     ~です (丁寧)                      **saltin**    ~だがどうか (返事催促)

2つ目は話者の気持ちを表すもので、口語でしか使われません。主に以下のようなものがあります。

**fean**    ~してくれる (感謝)              **reen**     ~だなあ (弱詠嘆)

**gun**    ~しやがる (迷惑)                      **reden**    ~だなあ (強詠嘆)

**bin**     ~である (断定)

最後は語調を整えるものです。日本語で、語尾に「~さ」や「~だよ」とつけるのと同じです。主に以下のようなものがあります。男女の区別はありません。

**o**      ~さ (軽く)                              **ki**      ~よ (明るく)

**vo**    ~だぜ (活発に)                          **fe**     ~だよ (淑やかに)

**la**     ~だわ (高貴に)

**o** は接続詞の **o** と同じですが、関係はありません。偶然一致しただけです。